

例 言

1. 本書は、斑鳩寺講堂屋根葺替工事に伴う瓦銘調査報告書のⅡである。
2. 調査は、太子町教育委員会社会教育課三村修次・田村三千夫が行なった。調査後の整理作業については、首藤聖・岩村千穂両名の協力を得た。
3. 本書の執筆は三村が行ない、編集は三村・田村が担当した。

目 次

1. 調査に至る経過 ----- 1
2. 調査の方法 ----- 1
3. 調査の結果 ----- 1

挿図目次

- 第1図 斑鳩寺伽藍配置図 ----- 表紙

表 目 次

- 第1表 斑鳩寺講堂屋根瓦銘文集成 Ⅱ ----- 2

1. 調査に至る経過

太子町鶴字斑鳩寺 709番地の、斑鳩寺講堂屋根葺替修理事業が行なわれることになり、8月より屋根工事が実施された。この講堂屋根瓦銘調査については、平成元年 4月12日に実施したが、今回新たに確認及び検出されたので、斑鳩寺講堂瓦銘Ⅱとして報告したい。

斑鳩寺講堂屋根葺替修理工事による南面屋根瓦取解工事が 8月24日より行なわれ、講堂前に再利用瓦が種類ごとに抽出していた。また、工事中に検出された瓦もあり講堂瓦銘の第2次調査として平成元年 9月11日に実施し、9月27日までに拓本資料等の整理を行なった。

2. 調査の方法

今回の調査は、講堂南面地区の瓦銘調査で、この工事中に発見されたものと再利用瓦内の瓦銘を抽出して、拓本及び実測図を作成した。また、瓦葺きに使用した釘も採取した。

3. 調査の結果

今回調査では、位置を確認することはできなかったが、明和六年銘(1769)で、『斑鳩寺本堂瓦』として双樹院の住職の名がみられる丸瓦3個体と『鶴住人藤原氏三木』及び『大和西之京之住人』の瓦師名が記載された丸瓦が確認された。

また、第1次調査で確認された、『大坂木津川口 瓦屋源兵衛』の刻印のある瓦の内面には、「い三寸」「ろ貳寸」とヘラで記入されており、瓦屋根を葺く位置を示すきものと考えられる。

第1表 斑鳩寺講堂瓦銘集成 II

(講堂瓦銘Iに続き)

| 番号 | 年号(和暦) | 使用建物及位置 | 種類 | 記載位置 | 銘文 | 文献 |
|----|-----------|---------|----|------|--|----|
| 15 | 1769(明和6) | 講堂向拝部 | 丸瓦 | 凸面 | 斑鳩寺本堂之瓦 干時 明和六年己丑二月中旬始之 瓦師當所三木庄兵衛作之 現世安穩 後世善處 南無阿彌陀佛 當寺雙樹院大忍釋妙志記之 | |
| 16 | 1769(明和6) | 講堂向拝部 | 丸瓦 | 凸面 | 斑鳩寺本堂之瓦 昔 明和六年己丑二月十七日始之 瓦師當所三木庄兵衛造之 現世安穩 後世善處 當寺雙樹沙門妙志記之 南無阿彌陀佛 | |
| 17 | 1769(明和6) | 講堂向拝部 | 丸瓦 | 凸面 | 斑鳩寺本堂之瓦也 明和六年己丑二月中浣始之 瓦師當所 三木伊八郎 造之 現世安穩 後世善處 當寺雙樹院妙志識之 | |
| 18 | | 講堂南面 | 丸瓦 | 凸面 | 船住人藤原氏三木庄兵衛 治七郎 十五郎 仁兵衛 善右衛門 太子本堂瓦 清六 仕候 藤右衛門 吉兵衛 源三郎 九人之作 | |

| 番号 | 年号(和暦) | 使用建物及位置 | 種類 | 記載位置 | 銘文 | 文献 |
|----|--------|---------|------|----------|-----------------------------|----|
| 19 | | 講堂南面 | 平瓦 | 凸面 | 藤原氏庄兵衛 | |
| 20 | | 講堂南面 | 平瓦 | 凹面 | (刻印) | |
| 21 | | 講堂大棟 | 丸瓦 | 凸面 | 大和西之京之住人瓦大工弥六作 | |
| 22 | | 講堂南面袖 | 袖瓦 | 凸面 凹面 | (刻印) 大坂木津川口 瓦屋源兵衛 い四寸 | |
| 23 | | 講堂南面 | 隅軒平瓦 | 凸面 | (飾) 橋 | |

瓦文

斑鳩寺 講堂

(太子町 709)

| 番号 | 年号(和暦) | 使用建物及位置 | 種類 | 銘文 | 文献 |
|----|-----------|---------|----|---|----|
| 15 | 1769(明和6) | 講堂南面 | 丸瓦 | 斑鳩寺本堂之瓦 干時 明和六年己丑二月中旬始之 瓦師當所三木庄兵衛 現世安穩 作之 後生善處 南無阿弥陀佛 當寺雙樹院大忍釋妙志 記之 | |

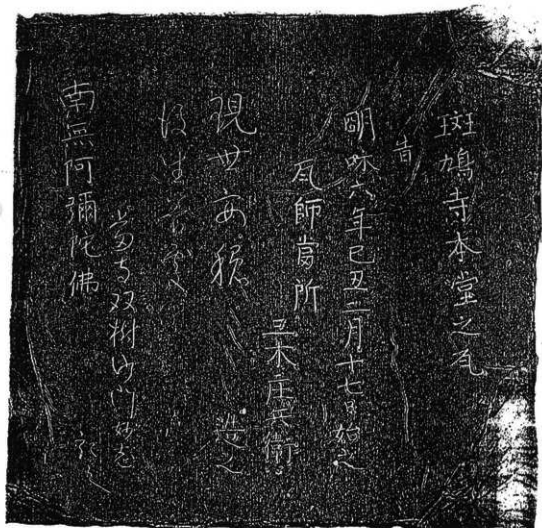


瓦文

斑鳩寺 講堂

(太子町 709)

| 番号 | 年号 (和暦) | 使用建物及位置 | 種類 | 銘文 | 文献 |
|----|-------------|---------|----|--|----|
| 16 | 1769 (明和 6) | 講堂南面 | 丸瓦 | 斑鳩寺本堂之瓦 昔 明和六年己丑二月十七日始之 (明和)瓦師當所 三木庄兵衛 現世安穩 造之 後生善處 當寺双樹沙門妙志 南無阿彌陀佛 記之 | |



瓦文

斑鳩寺 講堂

(太子町筋 709)

| 番号 | 年号(和暦) | 使用建物及位置 | 種類 | 銘文 | 文献 |
|----|-----------|---------|----|--|----|
| 17 | 1769(明和6) | 講堂南面 | 丸瓦 | 斑鳩寺本堂之瓦也 明和六年己丑二月中浣 (和) 始之 瓦師當所 (所)三木伊八郎 現世安穩 造之 後生善處 當寺雙樹院妙志識之 | |



瓦文

斑鳩寺 講堂

(太子町船 709)

| 番号 | 年号(和暦) | 使用建物及位置 | 種類 | 銘文 | 文献 |
|----|--------|---------|----|--|----|
| 18 | | 講堂南面 | 丸瓦 | <p>觸柱人藤原氏三木庄兵衛 (住) 治七郎 十五郎 仁兵衛 善右衛門</p> <p>太子本堂瓦 仕候 清六 藤右衛門 吉兵衛 源三郎 九人之作</p> | |



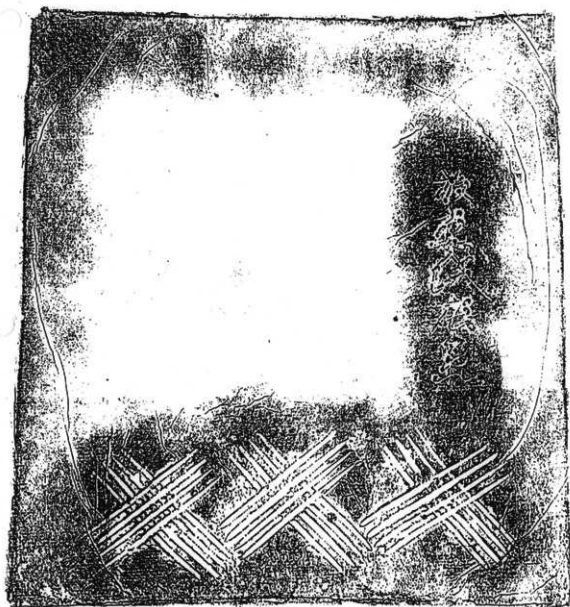
瓦文

斑鳩寺

講堂

(太子町册 709)

| 番号 | 年号(和暦) | 使用建物及位置 | 種類 | 銘文 | 文献 |
|----|--------|---------|----|----------|----|
| 19 | | 講堂南面 | 平瓦 | 凸 藤原氏庄兵衛 | |



瓦文

斑鳩寺 講堂

(太子町筋 709)

| 番号 | 年号(和暦) | 使用建物及位置 | 種類 | 銘文 | 文献 |
|----|--------|---------|----|-----|----|
| 20 | | 講堂南面 | 平瓦 | 凹刻印 | |



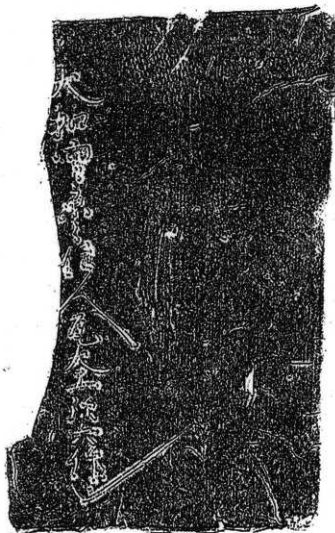
瓦文

斑鳩寺

講堂

(太子町船 709)

| 番号 | 年号(和暦) | 使用建物及位置 | 種類 | 銘文 | 文献 |
|----|--------|---------|----|----------------------------|----|
| 21 | | 講堂大棟 | 丸瓦 | 大和西之京之住人瓦大工弥六作 (のし瓦に転用) | |



瓦文

斑鳩寺 講堂

(太子町筋 709)

| 番号 | 年号 (和暦) | 使用建物及位置 | 種類 | 銘文 | 文献 |
|----|---------|---------|----|----------------------------|----|
| 22 | | 講堂兩袖瓦 | 袖瓦 | 凸 大坂木津川口 瓦屋源兵衛 凹 い四寸 | |



瓦文

斑鳩寺

講堂

(太子町筋 709)

| 番号 | 年号(和暦) | 使用建物及位置 | 種類 | 銘文 | 文献 |
|----|--------|---------|----|-----------------------------|----|
| 23 | | 講堂南面 | 隅巴 | 飾り(橘) (番号14と同范関係にある) | 1 |

